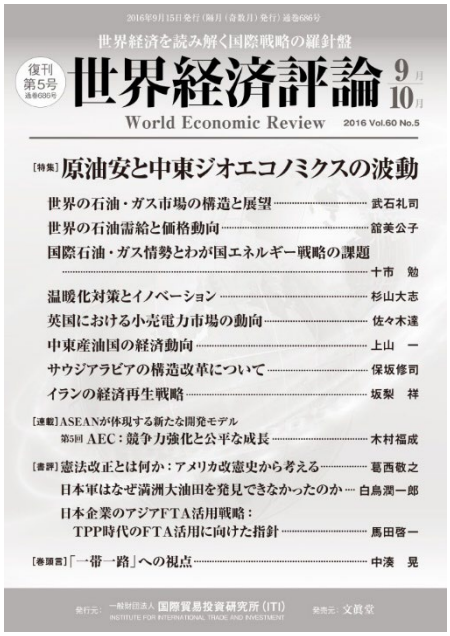
Back Number

本論文は

世界経済評論 2016 年 9/10 月号

(2016 年 9 月発行)

掲載の記事です



2016年9月15日発行（毎月（奇数月）発行）通巻686号

世界経済を読み解く国際戦略の羅針盤

復刊 第5号 通巻686号

世界経済評論 9月 10月

World Economic Review 2016 Vol.60 No.5

[特集] 原油安と中東ジオエコノミクスの波動

世界の石油・ガス市場の構造と展望 …… 武石礼司

世界の石油需給と価格動向 …… 舘美公子

国際石油・ガス情勢とわが国エネルギー戦略の課題 …… 十市　勉

温暖化対策とイノベーション …… 杉山大志

英国における小売電力市場の動向 …… 佐々木達

中東産油国の経済動向 …… 上山　一

サウジアラビアの構造改革について …… 保坂修司

イランの経済再生戦略 …… 坂梨　祥

[連載] ASEANが体現する新たな開発モデル

第5回 AEC：競争力強化と公平な成長 …… 木村福成

[書評] 憲法改正とは何か：アメリカ改憲史から考える …… 葛西敬之

日本軍はなぜ満洲大油田を発見できなかったのか …… 白鳥潤一郎

日本企業のアジアFTA活用戦略：TPP時代のFTA活用に向けた指針 …… 馬田啓一

[巻頭言] 「一帯一路」への視点 …… 中澤　晃

発行元：一般財団法人 国際貿易投資研究所（ITI） INSTITUTE FOR INTERNATIONAL TRADE AND INVESTMENT　発売元：文眞堂

世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料 1,320円×6冊=7,920円 ▶ 6,600円 税込

17% 送料無料 OFF

富士山マガジンサービス限定特典

定期購読期間中 デジタル版バックナンバー ※通巻682号以降 読み放題!!

世界経済評論　定期購読

[24時間・年中無休] 0120-223-223

お支払い方法 Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp 雑誌のオンライン書店

田中 友義

"Impossible Europeans" 雑感(2)

前号に続いて，イタリア人ジャーナリスト，ルイジ・バルジーニ（1908年～1984）の著書『ヨーロッパ人』の中から，「ドイツ人」と「フランス人」を取り上げてみたい。

著者は「ドイツ人は見かけとは全く違って変幻自在のプロテウスのようだ」と記している。プロテウスは，ギリシャ神話に出てくる海に住む老人で，海の主神ポセイドンの従者。予言と変身の術とに長じた。「いったいドイツ人とは何者か」と，古代ローマ人に至る遠い祖先が意識し，バルジーニが自問した永遠の問いに対する彼なりの答えである。

「かつて，19世紀に，ドイツは，平和なアルカディア（理想郷）のように見えた。人々はみな涙もろく，道徳を守り，神をおそれ，子ども，民話，音楽を心から愛していた。ドイツ人は堅気一筋であった」という。これこそ，ドイツ人がドイツチュツーム（ドイツ気質）と呼ぶものである。

ところが，著者は，戦前の首都ベルリンと戦後の西ドイツ首都ボンは「まるで変幻自在な海にも似たプロメテウス的ドイツの，まったく対立的な二極，お互いに相入ない二つの局面を代表していた」と記している。ベルリンは，「力，神秘，多弁，傲慢，予見不能な」ドイツであり，ボンは，「英知，忍耐，意志，堅固，慎重な」ドイツであった。戦後のドイツ人はみな，ボンに心の安らぎの源を探し求め，ひたすら「ヨーロッパのためのドイツ」を希求し続けた。

バルジーニは，ドイツが「ヨーロッパの将来は，もう過去何世紀にもわたってそうであったように，善かれ悪しかれ，そして好むと好まざるとにかかわらず，今日ふたたび，ドイツの将来によって大きく左右されることになったようだ」として，いまなお「ヨーロッパの心臓」であり続けると述べている。イギリスなきEUをどこに導くのだろうか。

さて，このプロメテウス的隣国ドイツに悩まされ続けてきたフランス人の特性について，「フランス（人）はヨーロッパのガスコーニュ（人）」と，ドイツの詩人ハインリヒ・ハイネが語っている。ガスコーニュは，フランス西南部の旧地方名。かの名作アレクサンドル・デュマ著『三銃士』の主人公ダルタニアンはガスコーニュ人で，「騎士道精神に満ち，惜しむことなく他人に何でも与え，寛大で，ものすごく勇敢で，想像力にあふれ，女には弱く，そして何よりも自惚れが強く，自慢したがる性質である」と。もっとも，仏語辞典では「ほら吹き」とか「抜け目ない」という，語釈である。

文豪ヴィクトル・ユーゴーは「フランス，フランス，汝なくんばヨーロッパは孤立する」と言った。フランス人は，「統一ヨーロッパがフランスによって創造され，必然的に指導されるものであり，その首都はパリになるものと，暗黙のうちに理解していた」が，現実は，ブリュッセルである。

しかし，「なぜフランス人は，人をいらいらさせて自国の偉大さを強調するのだろうか。確固たる調子で，（動物の中でもっともガスコーニュ的な牡鶏のように）声高に『フランスこそ第1位』と叫ぶ。しかし，その叫びは，時に実体とかけ離れている」と手厳しい。ジュリアス・シーザーがガリア人（ゴール人）と戦った大昔から「フランス人（ゴール人）は口論好き」で，論争，競争，敵意，そして，個人個人が自分の私的自由を味わうことができるような一種の混乱の時こそ，気が安まり，生き生きした気持ちになれるという。フランス（人）に幸いあれ。

たなか ともよし　駿河台大学名誉教授。